

青山教会会報

「聖者と悪霊」

イザヤ書三五章二〜七節

マルコによる福音書一章二二〜二八節

牧師 増田将平

ある安息日湖畔に立つ会堂に主イエスが来られて話をされました。集まった人々は驚いて口々に言いました。

「これは権威ある新しい教えだ」

ところがこの箇所は主イエスが話された教えについては全く記されていません。その理由は直前に記された主イエスの最初の言葉がこの安息日にも語られたからでしょう。

「時は満ち、神の国は近づいた。

悔い改めて福音を信じなさい」

「時は満ちた」

主イエスは神が定められた新しい時、決定的な時が歴史の中で始まったことを

宣言されました。さらにこの時は「神の国の到来」の時であると告げられました。

「神の国は近づいた」

神の国は国境を持った国家のことではありません。「国」という言葉は聖書では「支配」という意味があります。神がこの歴史、私どもの日々、人生を王となつて支配してくださる時が始まったのです。ところが、神の国、神の支配に対抗する支配の力が、安息日の礼拝堂の中にありました。そこで主イエスは「神の支配」を実現されるための戦いを始められたのです。

この悪霊は主イエスが誰であるかをこの会堂にいる誰よりもよく知っています。主イエスというお方の権威の由来を知っているのです。汚れた霊に取り憑かれた人は自分を「我々」と言います。実際の私が失われていきます。安息を奪われています。多くの霊がこの人を支配しているからです。そして言います。「かまわないでくれ」。言い換えると「我々とあなたの間にどういふ関係があるのだ」「神の聖者であるあなたと我々悪霊の間には何の関わりもないはずだ。だからかまわないでくれ」ということです。それなのに主イ

エスが近づいて来て汚れた霊どもの前に立っている。この現実に驚愕しているのです。汚れた霊、悪霊は即座に察知しました。主イエスが来られたのは親しくなるためではないのです。悪霊は「我々を滅ぼしに来たのか」と叫び言います。

「正体は分かっている」

「あなたは神の聖者だ」

悪霊の言ったことは正しいことです。それなのに主イエスは彼らに黙れと命じられました。なぜでしょうか。悪霊は人間の力を超えた存在ですから、主イエスが誰であるかを示す宣伝に用いても良さそうなものです。しかし悪霊は神の味方になったのでも、信仰を告白しているのでも、キリスト者になったわけでもありません。悪霊の一つの名前「サタン」は「敵対者」という意味です。神に敵対し、神の造られた人間に敵対します。だから主イエスは悪霊には神についての言葉を口にすることを許されないので。主イエスは悪霊の口を封印して命じられます。

「黙れ、この人から出て行け」

そう命じてこの人から悪霊を追放されました。

悪霊に取り憑かれていた人は気がつく

と、主イエスと共にいる自分がそこにいました。悪霊に支配されていた人が、神の支配の中に置かれて新しい自分を見出したのです。

主イエスが来られたのはこのためでした。悪霊が「かまわないでくれ」と言ったように、神と人のつながりを切ることで悪霊、サタンのねらいです。今朝の物語と全く同じではなくても、汚れた霊のような力はあちらこちらにあるのではないのでしょうか。そして私どもと神との絆をあの手この手で断ち切ろうとするのです。このような誘惑を避けることはこの世にある限りできません。このような汚れた力に負けてしまうと、私どもの弱さがあり、罪があります。罪とは切り離す力です。私どもと神、私どもと人の間を切り離し、孤立させます。

それでも神は私どもを見捨てないで近づいてください。創世記三章でアダムとエバは蛇の誘惑の言葉に従って、善悪を知る木の実を食べたことが記されます。蛇は悪魔を象徴しています。蛇の言葉に乗せられて神とのつながりを切った二人はその後、神を避けて木の間に隠れます。「かまわないでくれ」「神と私たちの間に何の関わりがあるのか」と言わん

ばかりです。しかし、神は彼らを捜し求めて言われました。

「どこにいるのか？」

つながりを切った人のところに神の方から近づいてくださり、神の支配をもたらしそうとされるのです。

そのためにはどうしても戦いを避けることはできません。神の支配を妨げようとする汚れた霊との戦い、悪の力に負ける私ども人間の罪との戦いなくして、神の支配をもたらすことはできないからです。誰一人として戦う力を持たない戦いのために、主イエスは肉体を取って人となってください、この世に来てくださいました。主イエスは十字架で肉を裂かれ、血を流して戦ってくださいました。死んで墓に葬られました。しかし三日目に復活なさって、死に勝利されました。それでおしまいでありません。主イエスは今でも、私どもと神を切り離す力と戦っておられます。まだ戦いは終わっていませんが、主イエスはやがて世の終わりに再び来てくださり、全ての悪の力を完全に滅ぼしてください。主イエスこそ、私どもを愛によって支配してくださいさる真の王です。

様々な誘惑の力を目の当たりにし、自

分の弱さに途方に暮れそうになるときも、私どもは主の祈りの言葉を口にします。

「御国が来ますように」

「どうかこの私を神様が治めてくださいますように。私だけでなく、全ての人が神様の支配に服することができましように。神様が全ての人を愛によって支配してくださいましように」と祈り続けましよう。

イザヤ書に記された神の約束の言葉に聞きましよう。

「弱った手に力を込め

よるめく膝を強くせよ。

心おののく人々に言え。

『雄々しくあれ、恐れるな。

見よ、あなたたちの神を。

敵を打ち、悪に報いる神が来られる。

神は来て、あなたたちを救われる。』

(六月十日主日礼拝説教要旨)

